

職場のコミュニケーションについて

使用者委員 伊地知 司

私はこの7月より、労働委員会の使用者委員という大役を拝命致しました。

労働委員会の業務とは、職場のトラブルを解決することや紛争を解決するためのお手伝いをする事と理解しておりましたが、5か月が経過する中で事案に直面して感じることは、特に個別労働紛争において、職場におけるコミュニケーション不足によるものが多いのではと感じております。

今現在、私は会社の採用試験に必ず面接官として立ち会います。なかでも最も重要視することは、コミュニケーション能力を持ち合わせているかを見極めることです。

それは、コミュニケーションがスムーズにいかないとお互いに不満を持ち、同僚と上手くいかないのでは会社に行くのが辛くなる、というような話になってしまうからです。

そもそも、自分の気持ちや考え、意思、知識等を相手に伝えることをコミュニケーションと言いますが、コミュニケーションを上手く取れるかどうかは、人間社会、会社、そしてどの部署でも最重要課題であります。

では、上手くコミュニケーションが取れないとどうなるか。一番困るのは、目指す目的が果たせないことです。その目的が仕事上の事柄であれば、利益を上げ損ねるくらいでとどまるならまだしも、逆に損失を出してしまうかも知れません。

上手くいかない理由の根本的な原因は、人によって情報伝達の発信能力と受信能力が少しずつ異なっていることだと思います。そのため、「あれ、持ってきて。」で通じる相手もいれば、こと細かく説明しなければならない相手もいます。

この能力の異なりは、その人が生きてきた環境や考え方によって生じます。コミュニケーションが取れないと嘆く前に、相手は自分と全く同じ発信・受信の能力を持っているわけではないと認識しなければなりません。

このように労働環境においても、労使が十分なコミュニケーションを取れないまま解雇や賃下げ等の諸問題を抱え込むことが、紛争に繋がっているのではないのでしょうか。

少なくとも、労使双方相手の立場になって考えていくことこそが、自主解決への道ではと考えます。同じ会社、同じ部署で働く者同士、同じ人間であり、決して理解できないことはないのです。